

志簡軒清詩集



遠 13
1726
7



13
1727
加卷

深井志道軒

名譽山号一无堂又伽藍堂

明正元年三月廿日没享年八十二

淺草寺内金剛院葬

遠をの人と多き子多き来あるとる月

虚中実
実中虚

あるのそのとるをりてきめあはる

志多氣山史

山東 木風託

序

予性雜而不能讀正史

其讀也僅裨史五冊子

耳雖不記章句而頗識

作者微意請試論之



近松氏姑舎西鶴人情。
其磧形質殘口翁神道。
導ミチビキ嫵ヒリ婉ヂク之和ヤハラキニ靜觀序。
長ナガ語ダンギ為リ諷諫コスリ之端ハシト無根。
之根蔓ハビ延コリ後締ニ穴サカシ搜シ

穴管ノヅク見ミ崇ヲトキハ世則此書モ尔マダ。
不カラ可ハ不ハ開ハ板セ也。其行ハヤルト與トハ不ル。
行ハヤラ則チ在リ觀ル者之腹ニ予將マサニ。
問ト諸コレラ豆マメ右衛門ニ。
于時レ

明和庚寅仲冬皆仙人
 書贈伽藍畫主人

贊

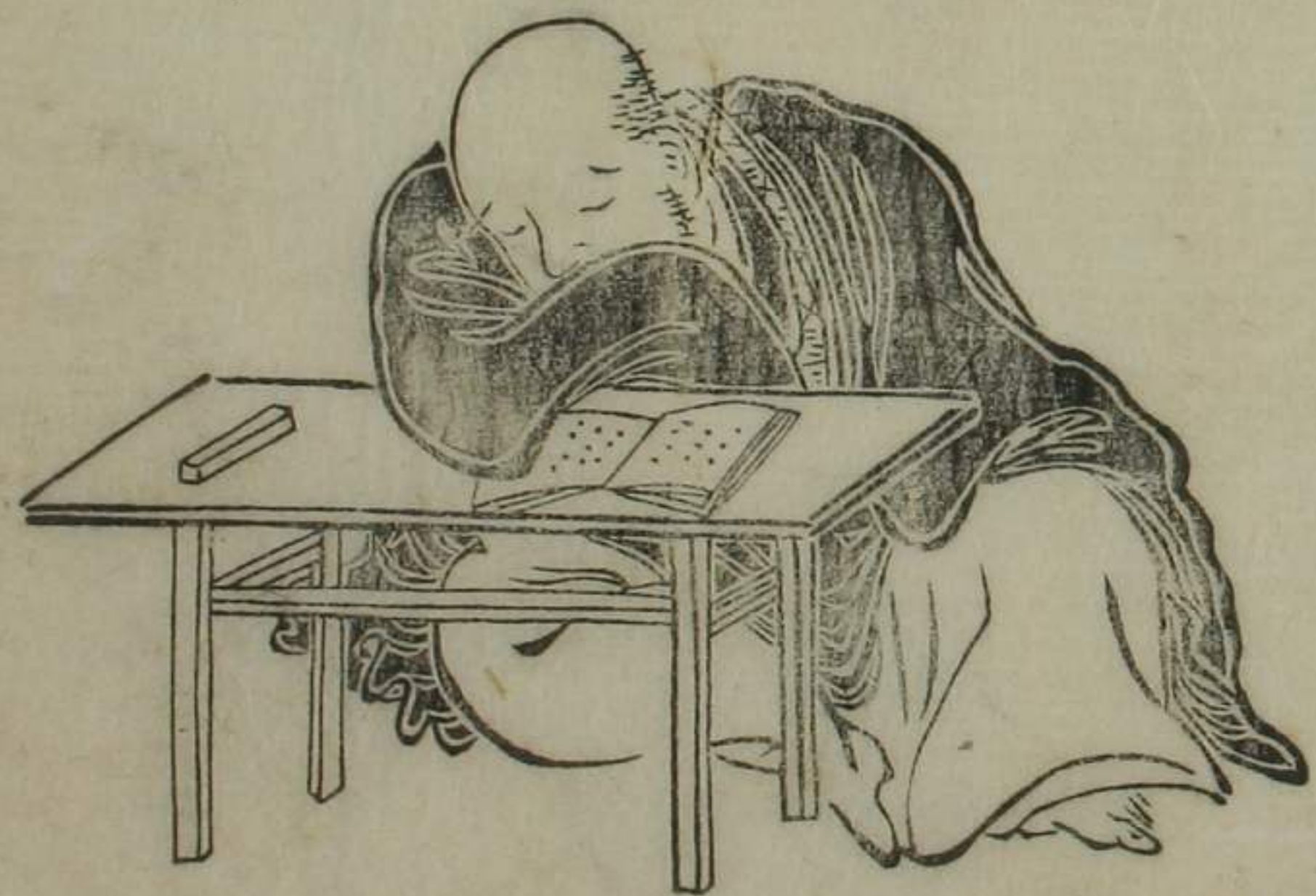
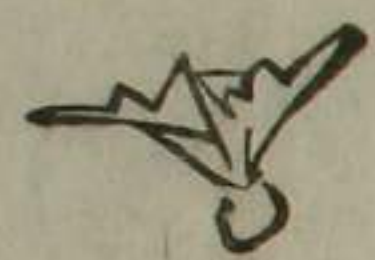
身纏三衣

心無一物

日取十二銅

且借三百店

皆仙人題



榮吉藏書

自序

東海よひとつの鴨蹄乃樹
のくそそ圍料直成いそ、
空らハ余文枝ハ百ハ
世界成敵い葉ハ十五洲の
肩よ似こそ具實成記香と
いづく法く世間の毒成

消寸そそ三ツ角れ名よ一あふ
和尙談い象成高座前願頭
の形そ成くとも古よ一ツ角れ
一物有りの無り真り偽り能え
もあ〜ねい作者ハ勿論當世
国子れ本も建立立見料ハ
一孝子に錢何れも口でも有持

講中減方かみ めつ こ か し ま り

勸化くわん け が

明味 庚寅冬

頼主

伽藍半誌

根香 當世滑稽法義卷之一

釈尊根香和尚を呼ぶ小章

夫然多此も根の滑法小慾乃鴈をい満一め
鶴の林の一夢よ雀法子夢法とめしより
二子余業の後をも仏法ゆくりさうんあり
夕ビくの声おしく小終え寸ナてイダのちち多
あしく小郷るハなとけ在せもはあしの仕合る

ヤの大匠(たいしやう)をえんハ我悽(がせい)の繕(とぎ)を偃(や)せ韓昌(くわんしやう)
 初奈(せいのな)もちやうバ情張(じやうしやう)の鏡(かがみ)をかげくん仏法(ぶつぽう)
 王法(おうぽう)とも子昌(しやうしん)に四海(しやうがい)波勢(はせい)もそ玉也(たまひ)治る時(ちまほ)は
 風枝(ふうえだ)をわく市ぬ侍代(しやくた)あわやハ大寺(だいじ)小童(せうどう)橋(はし)
 拾(ひろ)ふ御市(ごし)まゝく流(なが)れぬ玉も(たまひ)かうりくうりつけて
 巻(まき)の毛(け)ろ市(し)江(え)戸(と)芝(し)の角(かど)く糸田(いとだ)の糸(いと)山(やま)出(い)だ
 糸(いと)引(ひ)くくちおがしを人子(ひとこ)たひつきて四(よ)谷(たに)

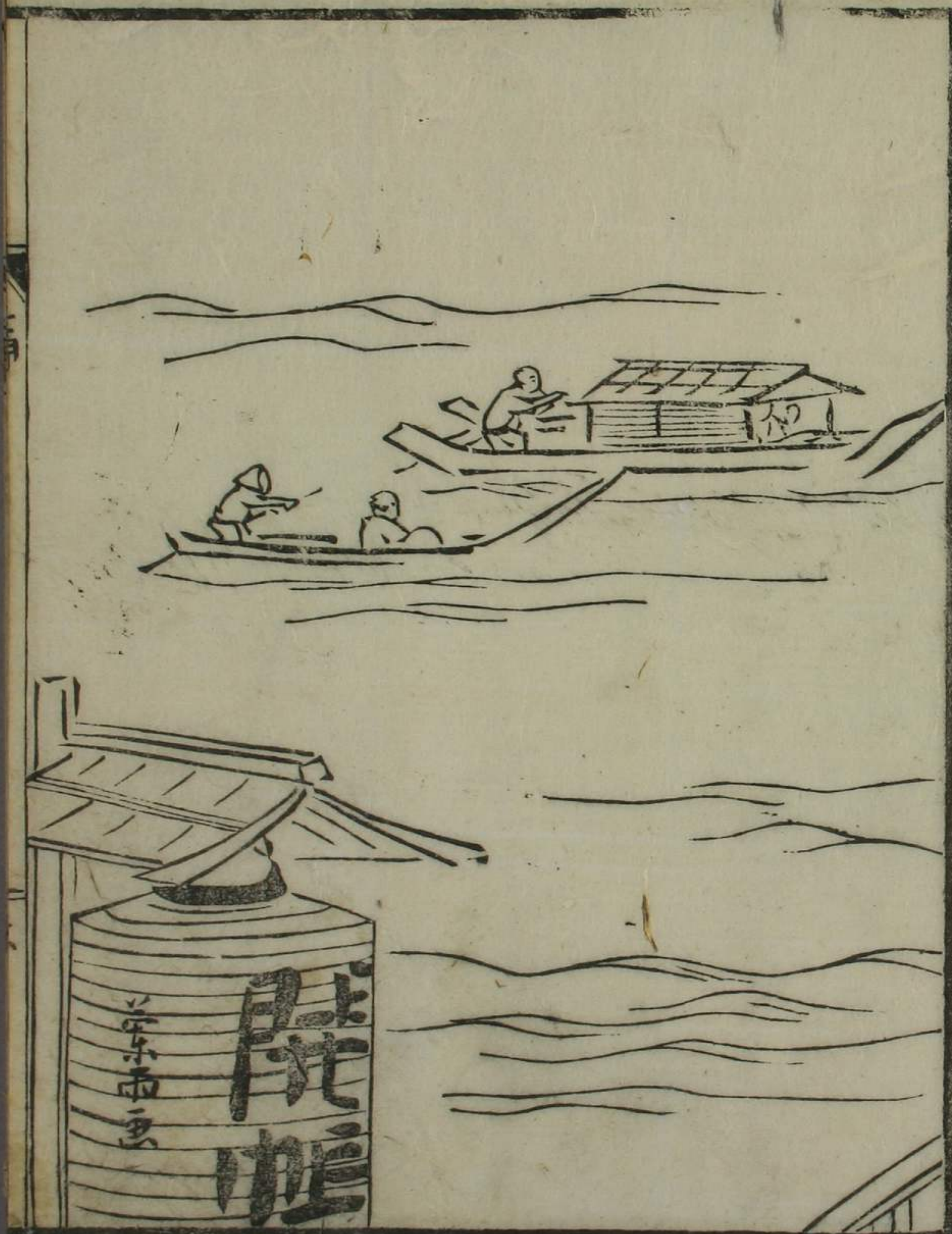
素垢麴(すこうま)断(た)くくおうくお糸(いと)のちすぐらひよ
 ゆきたてよこよもれもくとそ緒(いと)男(おと)女(め)神(かみ)張(は)り
 つくは躰(たい)強(じやう)つまごを救(すく)一(ひと)位(ゐ)百(もも)万(ま)糸(いと)人(ひと)と美(うつく)み
 と流(なが)くさぬ船(ふね)名(な)昌(しやう)いと度(と)本(ほん)不(ふ)回(かい)向(かう)院(いん)小(せう)籠(り)
 名(な)よきとえし家(いえ)差(さ)我(が)の侍(しやく)位(ゐ)己(おのれ)よ開(ひ)扉(ひ)のち
 日(ひ)よりたし合(あ)はるし合(あ)あむ橋(はし)ハ人(ひと)張(は)りて橋(はし)也
 かけ大(だい)河(が)舟(ふね)舟(ふね)張(は)りて陸(りく)とをしそああを

の町くハ人々行々ありくくくくくか
翁集くんしゅうの人の袖をゆりゆく河島かしま愛子あいこ梅うめが
富士ふじふも包むべく汗あせを志こころづつて漲たぎとあはれ
船門ふねかどの鯉こいもて上あす人々め々せうせうりきき
茶ちやをすすするもかき無な昌あきらハ白しろ癩らみ印いんりは
かいぢや剛へい快ちやう壯さう後ごともか我わが本ほん堂だう小人こじん充み満まん
一入いっにっ日にっをぬすり人念にんねん仏ぶつハ上じやうハ梵ぼん天てん下げを

隅田川すみがはの底そこくつ終しゆう文ぶん城じやうもとどく屋や一いっか
くて日も漸や々やぬるぬるハ赤あかむきく東とう海かい南北なんぼくへ
いれくぬるう中なかもまゝハ紅べにを赤あかく棧せき所しよく
猿さる身みは掉さほゆりしや河かもよ多たくけ夫おとこの如ごとく
北きたへもくるもゆれハ鉄てつ炮ぱうの音ねく南なんへもあり
さ海うみを別べつ色しきこれかちり仏ぶつもりやハがんぶ夫おとこが
くや海うみくくや音ねらん時ときは寺てら内うちハや、寂さむく寞ぼく

香烟^{こうえん}氣^き臭^くとして^{して}帝^{てい}位^ゐの光^ひ赫^くくく^くと^と輝^ひり
只^{ただ}納^な涼^{りやう}此^{こゝ}二^に結^{むす}を^を鞞^{ぎやう}の^の音^ねも^も火^かの^の音^ねく^くく^くと^と響^{ひび}き
の^のこ^こ己^{おのれ}小^{せう}初^{しよ}束^{さく}す^する^る以^{もつ}及^{およ}き^きく^くく^くと^と響^{ひび}き
沛^{はい}戸^こ悵^{たう}の^のと^とう^う親^{おや}を^をお^お現^{げん}一^{いつ}玉^{ぎよく}へ^へハ^ハ五^ご百^{ひやく}の
阿^あ羅^ら漢^{まん}右^う小^{せう}圍^ゐ繞^{じやく}一^{いつ}山^{さん}魏^{ゑい}く^くと^と鳴^{なり}り^り堂^{だう}く^く
然^{しか}り^り親^{おや}を^を懐^かく^くく^く日^ひ我^が三^{さん}十^{じゆ}八^{はち}年^{ねん}あ^ありて
下^{くだ}り^りく^く小^{せう}倍^{ばい}せ^せく^く南^{なん}地^ちの^の無^む常^{じやう}我^が仏^{ぶつ}法^{ぽう}の

侍^し人^{にん}が^がる^る者^{もの}い^いふ^ふと^との^のい^い海^{うみ}へ^へ阿^あ羅^ら漢^{まん}を^をい^いど^どあ
阿^あ羅^ら漢^{まん}を^をい^いと^とく^く小^{せう}世^せを^をの^の沛^{はい}藏^{ざう}光^{かう}り^りも^も思^しふ^ふ
の^のい^いり^りと^と同^{どう}ぢ^ぢ小^{せう}を^を思^しふ^ふ阿^あ羅^ら漢^{まん}又^{また}曰^{いは}は^はり
か^かく^く毎^{まい}日^{にち}く^く億^{いっ}万^{まん}の^の人^{にん}小^{せう}お^おが^があ^あり^りて^ても^もな^なや
又^{また}作^{しよ}も^も一^{いつ}び^ひ世^せ親^{おや}も^もく^くく^くむ^むれ^れを^をい^いて^て通^{とう}る^るり^り
ゆ^ゆんと^と名^な我^が等^{らう}親^{おや}の^の教^{きやう}を^をや^やが^が響^{ひび}も^も阿^あ羅^ら漢^{まん}の^の
ホ^ほろ^ろろ^ろの^のい^いか^かく^くく^くと^と思^しふ^ふく^く久^{きう}遠^{えん}く^くと^と思^しふ^ふの^のこ



衣此袖をむすび綴れまゝのうゑケ紫サ海ウミ客キヤクにけ
 しハ恰ちがう作しやう源げん左さ末ま門もんを出家しゆげと一いつ寺てら居ゐ
 ふとくあり英えい指さし玉たまへる解げん淨じやうをを目めとひま
 ゆびとあり一いつつらつらとてく和わ尚しやうとて
 あへま

破やぶきつらぬよとち寸すんゆぶくと
 志しろとよハ似にぬ辻つじ談だん義ぎ候こう

とらるけむきむきなるけまきををかかくくぬぬくくくくくく
 一いつつらつらとてく和わ尚しやうとて
 笑わらををああひひなるけ軟なんをを佛ぶつ多たくく家けハハくく善ぜん引ひ
 く報ほう吉じき和わ尚しやうままくく一いつつらつらとてく和わ尚しやうとて
 我われ洗せん統とうをを舞まするすく満まんききくくくくののおお入いば
 報ほう吉じきのの川がわととおお伏ふく一いつつらつらとてく和わ尚しやうとて
 不ふ肖せうよよハハくくくくくく生せい質しつ此こゝ猥らん雜ざつ滑くわく枕まくら勢せい中ちゆう屋や小せう

けいふあしむらうきせの読みの蒲焼りと生喫
 くはらへともほろひひ小飯まがひめんとして禁ず
 ざる答えたりとれはせざる志悦みひこれ程得た報告
 小酒を振舞あよ今東ハ指かくごうぶのしりふれはまき
 又戒くわい乃むとみふれどいづきまもまゆる一報も
 一献えらもやど小くやとしくとの玉へハ長とみ
 と酒樽のやぐみをすめき持からき一哉せが一息せきと

市青物いちせいぶつハふのしく天皇てんおうの御味優玉ごみよしの多味糖強
 取とりてかべくせざるも一も所深き報告
 せはあひひいづつおあつう天は喜よろこハお代未しろ少
 のしりともあつとれお新あらたまる市青の卵たまごのものを
 石いしよりれし小久まかしし小むせ玉たまごひ忽たちまち芽めい
 茎かきの涕なみだ潤うるむしく流ながし玉たまごひ涕なみだ中なかり
 市汗いちあせ走はしるなりともあまはハ涕なみだ月つき拭ぬぐのり拭ぬぐとる

よきふうせむしをんくわち

淨鼻をむしよと成も幸子部ず

おとけの教もういといへん

秋もあつこく笑をむし部告よ又淨盡さうま

とびりれハ難をといふとほを行難ああふ

茗荷を携んこまこねく一そと何ういれハ

人謂食茗荷 自成能呂摩

本来大好物 繫特奈吾何

ろしりう酒宴は費ももけふしこけふしこけふしこ

名小一ゆふふ大酒あつかの飲中ハ此の殺晋ころ

も信信のやとけふしハこよひをわとやとほいん

偏袒右肩も大肌ぬきあありあひ在合の大特むち

よく淋香をばしあむハこいれねるいるいるい

を我がとらしお意このよの出ておさしいく淋香

しどふとんくわる

下戸いあうそ十分あるハ遊吾や

あそ守とんくわあけらた酒

去はとふ入るれあ〜と吾やふ何と〜

あふん目蓮と舍利弗目を照〜も悟りた

あふぬのりや林のさ〜や〜らるいのとなん

でもかいの辟をとり返り闘諍するん〜けきハ

和当

看如培壠酒如泉 飲矣喰ら有頂天

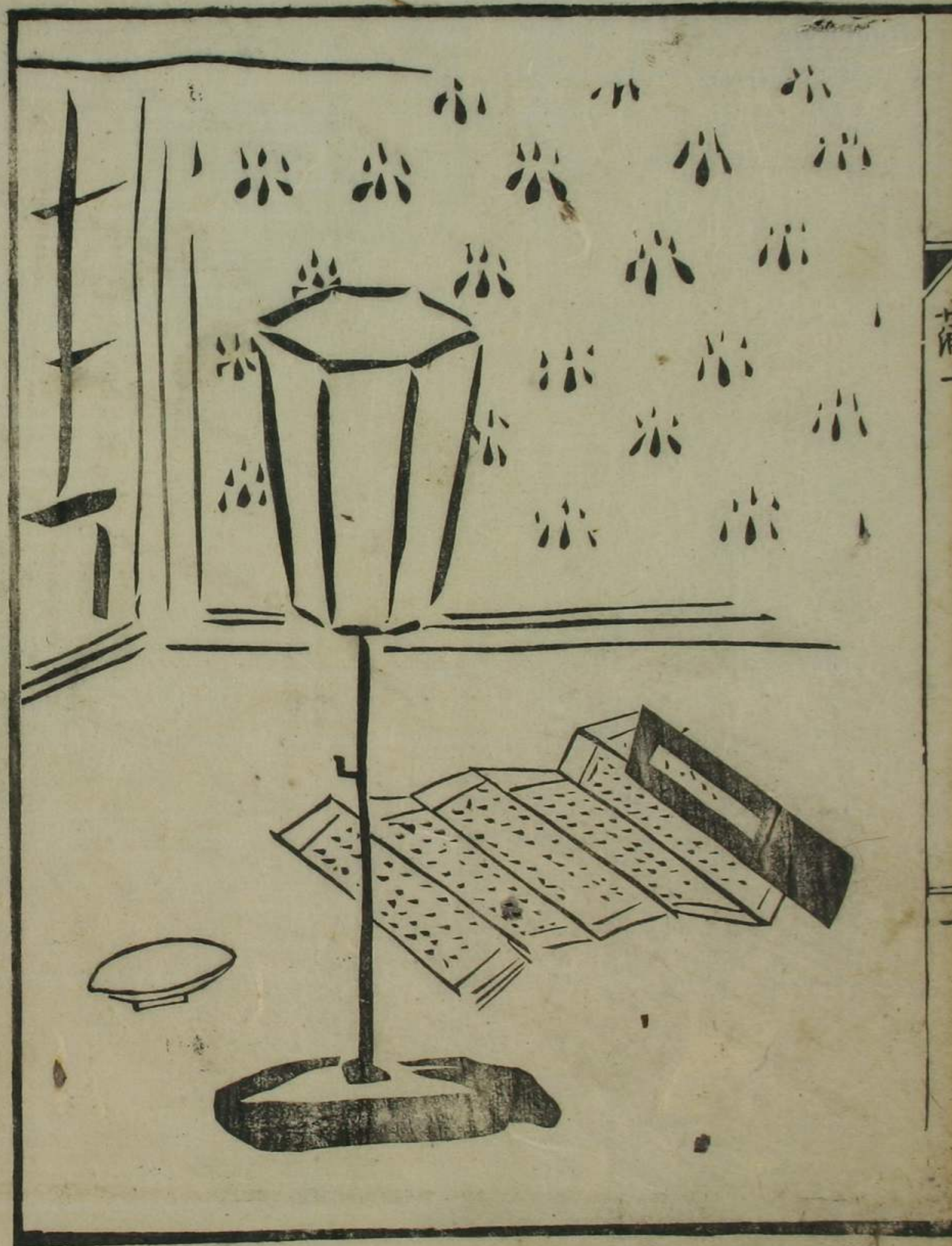
為道醉狂羅漢達 喧嘩無用世尊前

そはあ〜るんの目蓮きりぬあ〜

骨の舍利弗のつゝのあ〜

あふの者身を憚〜終〜ひよあ〜を報告す

作もおの〜感〜おいまおハ報告するあけ



取とや中ふくハはたれ我使ッ担寄ハ也
 何と云の挽物^先喰^先吐^先の^先爲^先書^先か^先と^先日^先法^先淡^先よ^先あ^先き
 と^先か^先け^先酒^先一^先呈^先の^先情^先よ^先え^先来^先舎^先利^先帯^先後^先立^先上^先戸
 ぶれ^先く^先坊^先主^先何^先あ^先く^先上^先を^先胸^先が^先も^先い^先あ^先よ^先今^先時^先の
 元^先来^先あ^先ら^先ら^先く^先人^先よ^先ら^先と^先や^先さ^先さ^先と^先り^先ぶ^先あ^先の^先通^先
 張^先る^先情^先よ^先ハ^先お^先海^先く^先味^先情^先を^先す^先り^先し^先し^先や^先お^先し^先も
 担^先寄^先ハ^先志^先門^先を^先ぬ^先く^先あ^先め^先く^先己^先の^先口^先ら^先か^先ら^先ひ^先ら^先一^先首^先

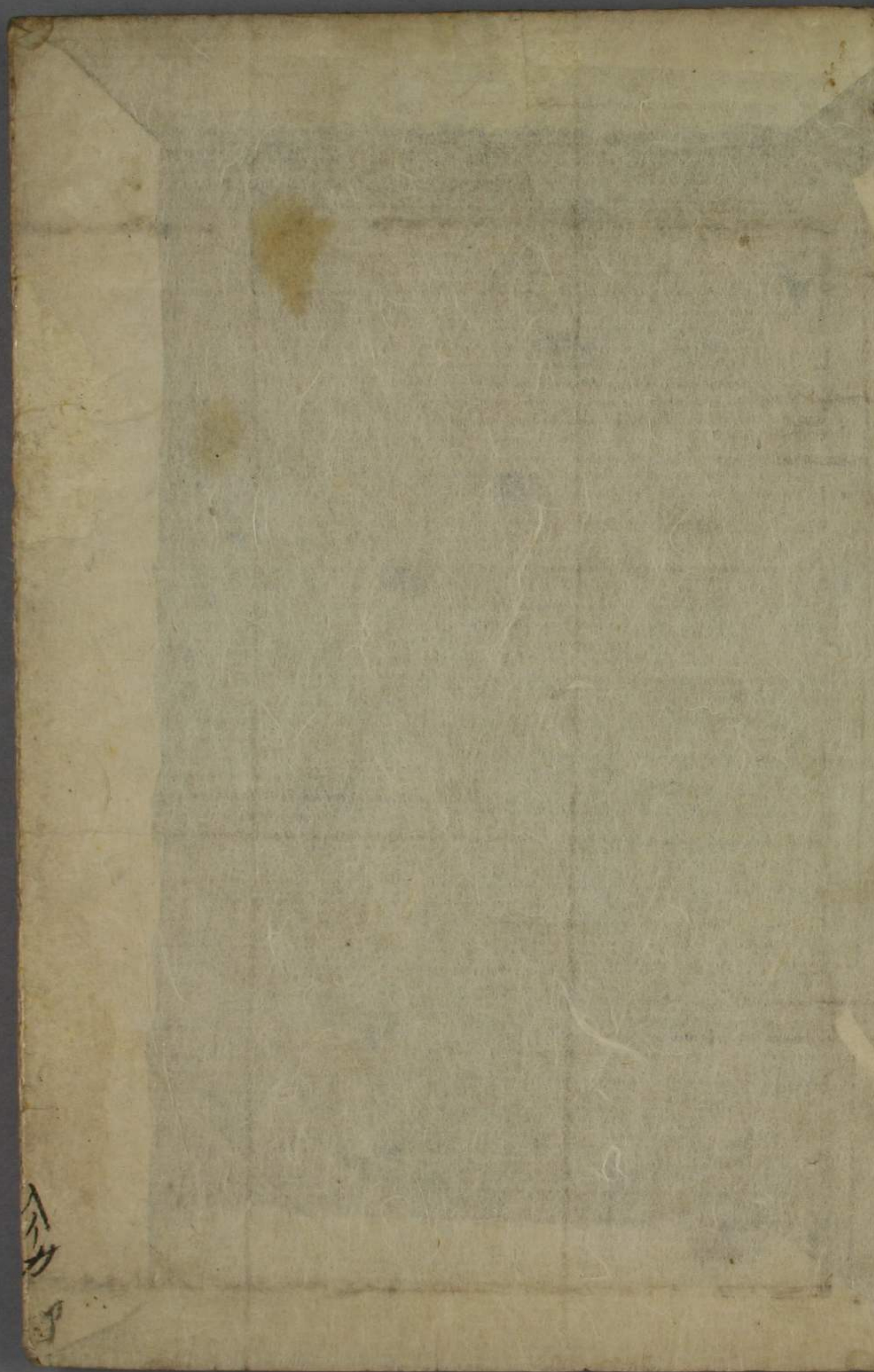
え^先し^先ら^先せ^先く^先く^先れ^先ん^先ま^先く^先坊^先の^先身^先の^先情^先意^先情^先の^先ほ^先
 舎^先利^先帯^先よ^先自^先情^先の^先鼻^先を^先ひ^先し^先ん^先く
 む^先の^先あ^先く^先む^先ま^先く^先あ^先の^先あ^先ら^先く^先坊
 い^先ま^先く^先と^先あ^先り^先あ^先れ^先ハ^先報^先告^先言^先下^先よ^先答^先く
 ぶ^先し^先げ^先あ^先く^先む^先ん^先く^先あ^先ら^先く^先え^先え^先あ^先ら^先く
 海^先ど^先う^先て^先あ^先ら^先れ^先入^先用^先出^先鼻

これ小さすう此舍利事も小ぶら〜ひをうせ〜れ
るる扱はも願たけな〜名新るやら吐とを〜くやら
傳つた柄も此身より〜杯こ盤えん己こは拾し精せう〜干かん時じ
和わる

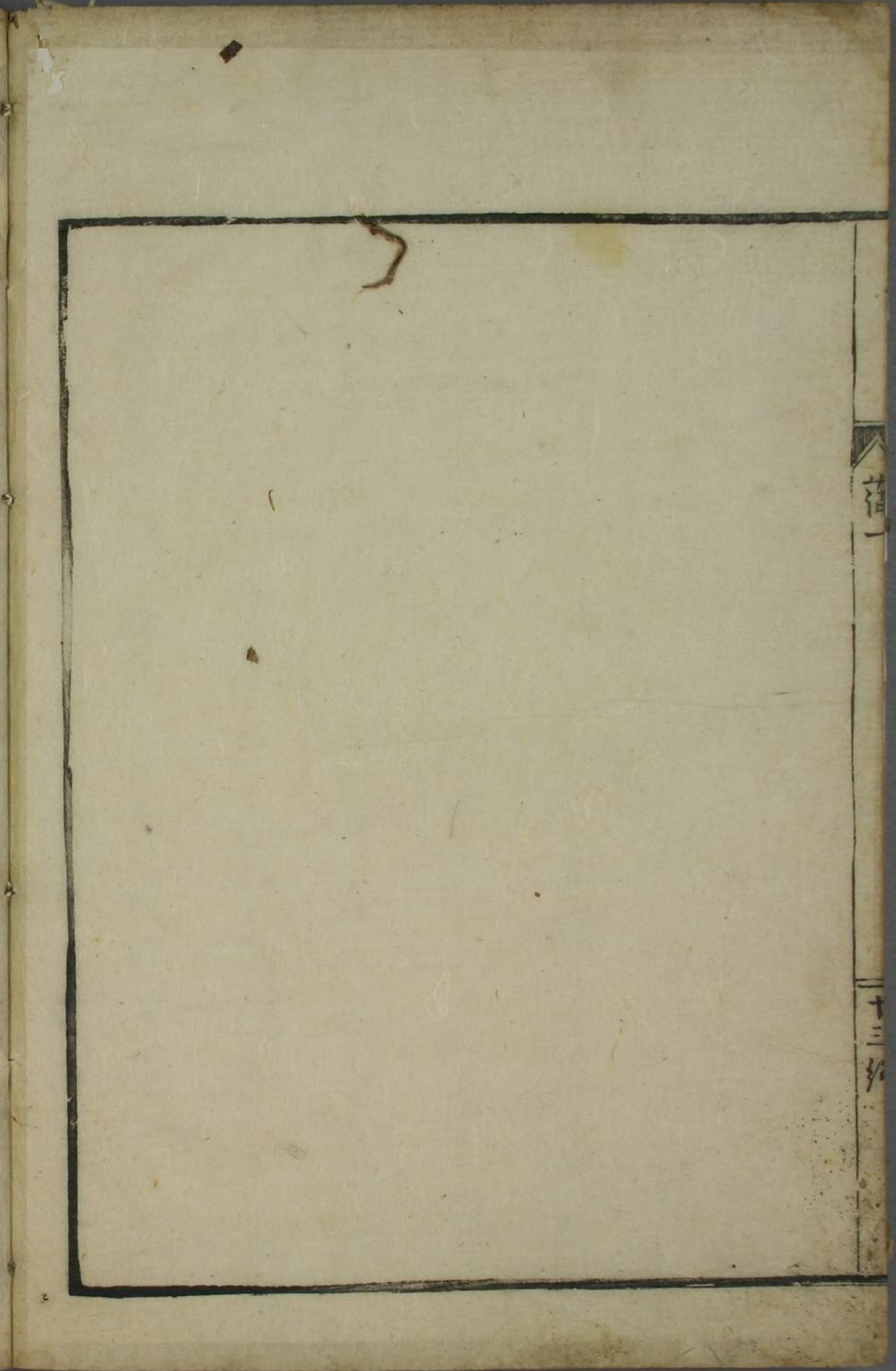
すいもの〜わ〜〜よらんかん聖せい書しょあ〜く
けつ〜ふけ〜傳つた酒しゆ宴えん

親まるま身みよよいいをを玉たましし細こくく〜新あらたきき坊ぼく主しゆうう那な

〜てハ急いそもの〜談だん義ぎハはささがが後ごををかか〜一いち半はんは
〜んんああ〜一いち夜や取とり〜ののままハハええ来来不ふ
敵たかのの諸しよ吉きち和わ高たか面めんのの尖せんののつつまま〜ハハ半はんのの華け登と文ぶんの
〜膽たんのの胸むねととまま〜ハハ廻まわ白しろ拍ぱくのの〜ままののああれれハ
〜うう〜一いち候こう義ぎ〜はは〜けけ〜れれ西せい方ぽう法ぽう
親ま遊ゆ〜んん經きやう
讀よ義ぎ浦うら焼やう巻ま〜一いち紙し



Handwritten characters in the bottom left corner, possibly a page number or a mark.



荷

十三

